

## ネイチャーセンター ガイド (116)

アカネズミとの駆け引き

昨年、「ふれあいの里」でよく手伝ってくれていた仲間と、猛暑の中、森のサテライトの大改造を行なった。私は、チェーンソーで木を切り、仲間はその木の枝をナタで払う。それを敷地の脇へ運ぶから、それは大変。林業の大変さが分かったような気がする。

私たちのしている伐採は生活のための林業ではない。しかし、必死だった。アカネズミとの出会いを創出するために、木を切っていた。適度な光と風を森の中に入れてたくて、アカネズミになったつもりでやってみた。所詮、私たちは人間でアカネズミへの勝手な思い込みがそうさせているのだが、木への思いは人一倍と自画自賛。知識はないが、ただただ包まれていたいと思っている。何も知らないと命を落とすこともあるので、特性やかぶれたりする種類だけは知っておきたい。

また、思いが強すぎて炭焼きに来たおじさんたちと議論したこともある。窯へ入れる薪が足りないからと、川向こうにあったナラの木を勝手に切ってしまったのだ。現場には居合わせなかったが、小屋の周りの環境が変化していたのに気付いた。現場へ行き、確認すると落ち葉で切り株は隠されていた。「何で切ったのか?」と問い正した。何も応えられない。

「薪が足りないからその辺の木を切っちゃえ」そんな気持ちが見え見えだったから、余計にがっかりした。樹齢50年以上、そこで果たす役割は果てしない。安易な気持ちで切られた木はう

かばれない。炭になったんだからいいじゃないか。そんな返答がきそうな世の中だが、問題はそこではない。やたら切ったことに問題がある。こんな気持ちで山を管理したらどうなるか? やたら切られたらどこに影響がいくのか、自然の怒りの矛先はいずれ人間へと向けられること必至である。それを知らずに木を切る人に炭焼きをする資格はないと判断。余計な話しが長くなりましたが、本題に戻ります。

私なりの適度な風と光は、確実な出会いの場を創出してくれました。例年ならば、2頭が限度なアカネズミ出現率。その年は、なんと最高6頭も姿を現してくれたのです。言葉を発しない、動物たちと会話をする事ができたような気がしました。

調子にのり2007年6月、よせばいいのにまた、伐採と管理に出かけました。結果は歴然、切りすぎました。明るくしすぎました。管理は難しい。はっきり言って失敗でした。足元が見えてなかったですし、アカネズミになっていなかった。フクロウやキツネ、テンなどに狙われないように、空から攻撃を防ぐ木を残してあげればと後悔は先にたたず、ふれあいの里に来てくれた子どもたちに公開して、また後悔してしまいました。

人の目線では、さっぱりとした綺麗に見える森でも、アカネズミにとっては危険がいっぱいの森になってしまう。アカネズミに教わりました。失敗しながら学ぶことを今でも繰り返しています。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター  
開館時間：午前9時から午後4時まで  
休館日：月曜日、祝日の翌日

### 違反建築防止週間

10月11日(木)から17日(水)までの7日間「違反建築防止週間」です。

この期間には、県内全域で一斉公開建築パトロールを実施します。

県や市の職員などが、建築工事現場へ立ち入り調査を行いますので、ご協力をお願いします。

建物の新築や増築をするときには、原則として事前に建築確認を受け、完成時には、完成検査を受けなければなりません。

また、工

事中の計画変更は事前手続きが必要であるとともに、建物の規模や用途によっては、中間検査を受けなければなりません。

これらの書類審査や現場検査制度によって、建物が安全にできあがり、安心して使用できるようになっています。

建物の安全は、私たちの住むま

ち全体の安全につながります。

違反建築のない住みよいまちをつくりましょう。

